

参考手本

雪山時鐘夜

山鐘夜雪の時

高木聖雨先生

※これは規定課題ではありません。

参考手本

※これは規定課題ではありません。

盛徳足らざる若し

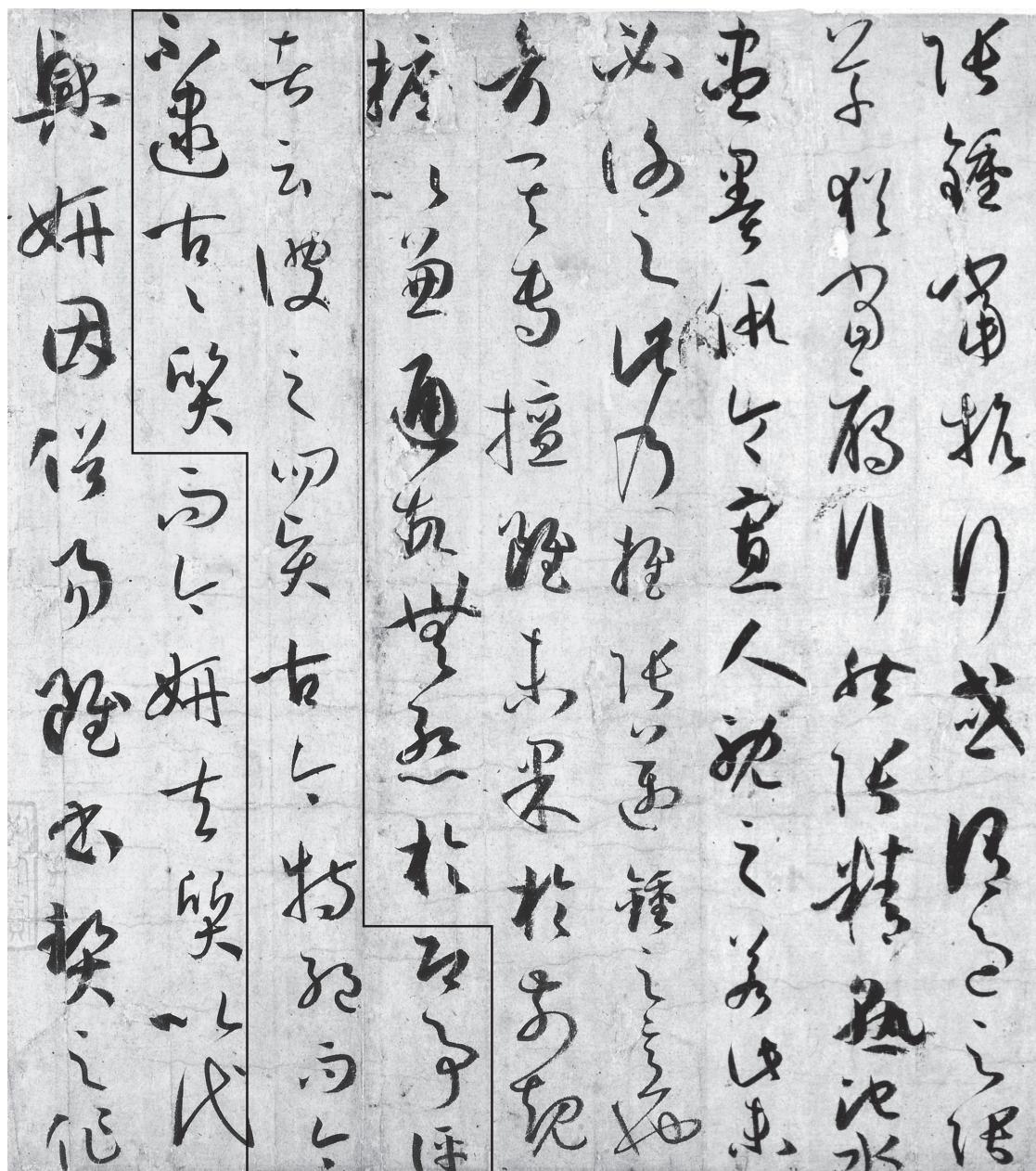
盛徳足
らざる若し

成瀬映山先生

条幅規定

A部 (準五段以上)

『書譜』⑧ 孫過庭



はいへん書

条幅のバーコード出品券にはA・Bでは無く段・級を記入してください

〔二〕の課題を同月の条幅随意には出品出来ません

【今月の課題】
 「即事評者云彼之四賢古
 今特絕而今不逮古古質」
 (20字)

鍾には當に抗行すべく、或いは謂えら
 く、之に過ぎんと。張の草には猶當に
 務行すべきも、然れども張は精熟して、
 池水ことと近く墨となる。仮令寡人之に耽
 ること此くの如くんば、未だ必ずしも
 之に謝じずと。此れ乃ち張を推して
 鍾に邁ぐとするの意なり。其の專擅を
 考うるに、未だ前規より果ならずと雖
 も、摭りて以て兼ね通ず。故に即事に
 懲する無し。評者云く、彼の四賢は、
 古今の特絶にして、而して今の古に逮
 ばざるは、古は質にして今は妍なれば
 なりと。夫れ質は代を以て興り、妍は
 俗に因りて易わる。書契の作るや、

張。鍾當抗行。或謂過之。張
 草猶當履行。然張精熟。池水
 盡墨。假令寡人耽之若此。未
 必謝之。此乃推張邁鍾之意也。
 考其專擅。雖未果於前規。
 掇以兼通。故無慙於即事。評
 者云。彼之四賢。古今特絕。而今
 不逮古。古質而今妍。夫質以代
 興。妍因俗易。雖書契之作。

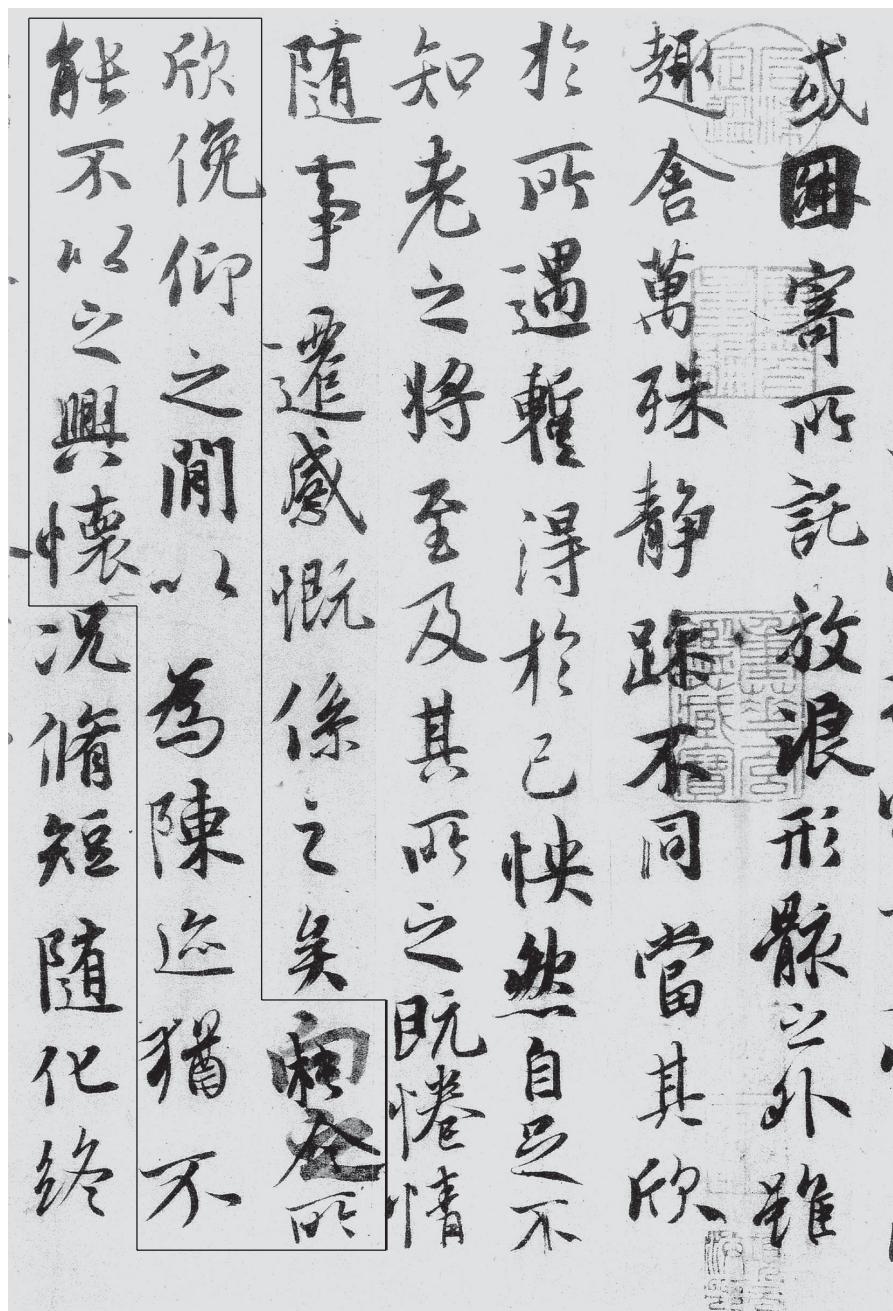
(1月10日締切)

条幅規定

B部 (四段以下)

『蘭亭叙』

王羲之 (東晋)



閒猶興

或因寄所託。放浪形骸之外。雖
趣舍萬殊。靜躁不同。當其欣
於所遇。暫得於己。快然自足。不
知老之將至。及其所之既倦。情
隨事遷。感慨係之矣。向之所
欣。俛仰之間。以爲陳迹。猶不
能不以之興懷。況脩短隨化。終

或いは寄せて託する所に因つて、形骸の外に放浪す。趣舍万殊にして、静躁同じからずと雖も、其の遇う所に欣び、題く已れに得るに当たつては、快然として自ら足り、老の将に至らんとするを知らず。其の之く所既に倦み、情は事に隨いて遷るに及んで、感慨之に係わり。向の欣ぶ所は、俛仰の間、以て懷に陳迹と爲るも、猶お之を以て懷を興さざる能わず。況んや脩短は化に隨い、終に

条幅のバーコード出品券にはA・Bでは無く段・級を記入してください

〔二〕の課題を同月の条幅随意には出品出来ません

【今月の課題】
「函之所欣俛仰之間以爲
陳迹猶不能不以之興懷」
(18字)

(1月10日締切)

半紙規定 (二)



九成宮醴泉銘 (唐・歐陽詢)

半紙規定 (一)



曹全碑 (漢・作者不詳)

※清書の提出は
〔初段以上〕楷書か隸書
〔二級以下〕楷書

沈瘦を・又た將に彼の遐齡を延べんとす。

〔この課題を同月の半紙随意には出品出来ません〕
(1月10日締切)

条幅参考手本

千山鳥飛絶 萬徑人蹤滅 孤

舟蓑笠翁獨釣寒江雪

南嶺

渡邊南嶺先生

千山鳥飛絶

萬徑人蹤滅

孤舟蓑笠翁 獨釣寒江雪

千山鳥の飛ぶこと絶え

万徑人の蹤滅ゆ

孤舟蓑笠の翁 独り釣る寒江の雪

渡辺久美先生

微聽松風響 而無鐘磬音 禪房僧未起 初日上東林
微かに聽く松風の響き 而して鐘磬の音無し 禪房僧未だ起きず 初日東林に上る

条幅かな

大原やをしほの山のこまつ原はや木高かれ千代の影みむ（紀貫之）
手寶万萬者多か連可無（）



支部名 段級 姓名（鉛筆）

※かな部は支部名・段級・姓名を鉛筆で左下部に添え書きして下さい。

本手参考条幅

枕上角聲微 離情未息機 夢回三楚寺 寒入五更衣
枕上角聲微に 離情未息機せず 夢は回る三楚の寺 寒は入る五更の衣

浮 乘 清 鄉 先 生



樋口弘堂先生

(1月10日締切)

半紙かな（1級以下）

子の日しに都へ行ん友もがな
（松尾芭蕉）

支部名
級
姓
号
（鉛筆）

※ちらし文字変換は自由

※支部名・級・姓号を鉛筆で左下に添え書きして下さい。

半紙かな（初段以上）

ことしより君がよはひをよみて見む松の千とせをあり數にして（良寛）
今年里可盤非帝三無勢せをあり數にして（良寛）
※ちらし文字変換は自由

支部名
段
姓
号
（鉛筆）

（1月10日締切）

※支部名・段・姓号を鉛筆で左下に添え書きして下さい。

実用文

※準三段以上…行書を草書に変換は自由

〈書風任意〉

支那書道研究会
書風研究会

やく河の流れは絶えず一川
かわとの水にあらずよどみに浮
さうしたやにはかつ消えかつ結び
マクヘとどまりやのたまへ

森 亜希子 先生

「方丈記」鴨長明より

(1月10日締切)

細字

高須翠雲書「五體昭和千字文」より
P42

主幹菅野翠濤

逆
船
埠
所
停
舶
牧
牛

船埠所停舶牧牛

湖之游

埠

所停

舶 舶 牧 牧

牛 牛

游

船埠

丙寅

和
好

十一

翔

船埠

正停

白駉

牛

支部

段級

姓

号

（名前は必ず楷書で書くこと）

※一級～八級は草書まで。
初段以上は隸書まで。

※名前は楷書以外では違反になります。

17
cm (よこ)
×
24
cm (たて)

埠ふ遡さく

所船

船つき場。 船が上流へさかのぼる。

硬筆（1級以下）

2行、楷書

支部 級 姓 号

古今東西、名著といわれる多くの本が、私に英知を与えてくれた。

硬筆（初段以上）

3行、行草書

……鐘……響いて……願い……愛おしい。

除夜の鐘がひとつずつ街に響いていた。
それぞれの響いが静かに空へ昇っていく。
年を越すといつ儀式があるらしい。

支教ふ あ 姉弓

田邊翠鶴先生

青柳江雲先生

※本院定型用紙・たて半分に書く

(1月10日締切)

小6用

今年の夢

渡邊南嶂先生

中1用

初春大空

渡邊南嶂先生

中2用

新雪遠山

渡邊南嶂先生

中3用

富岳百景

大越宗先生

小1用

はつひ

鈴木翡翠先生

小2用

かどまつ

鈴木翡翠先生

小3用

たこ上げ

鈴木翡翠先生

小4用

明るい光

大越三宗先生

小5用

元日の朝

大越三宗先生

青 柳 江 雲 先 生

新年を祝し、皆様のご
多幸をお祈り申します。

青 柳 江 雲 先 生

賀春、心より新年のお
祝いを申し上げます。

青 柳 江 雲 先 生

本年もよろしくご指導
お願ひ申し上げます。

鈴木蕙翠先生

昨年は、お世話になり
お礼申し上げます。

小6用

中1用

中2用

中3用

小1・幼年用

ございます。
あけましておめでとう

齊藤翡翠先生

小2用

お正月に、かるたやト
ランプであそびたい。

齊藤翡翠先生

小3用

今年もよろしくおねが
いします。
一月一日。

齊藤翡翠先生

小4用

新しい年の初めを、
いわい申し上げます。
お

鈴木蕙翠先生

小5用

本年が良い年になるよ
う願つております。

鈴木蕙翠先生